Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 16第34号
2016年（平成28年） 12月2日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電話 （03）3534-7411（代）
FAX （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ http://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

11/17～11/23のNYMEX・WTIは、OPEC減産実施への期待が高まり、45.42～48.03ドルの範囲で上昇気味に推移した。

感謝祭休日明けの週末11月25日は、サウジアラビアがOPEC内の減産調整を優先すべきであるとして28日開催予定の非加盟産油国との協議にファリハ・エネルギー相は欠席するとの報道で、減産実施への悲観論が広がり、大幅続落した。期近の1月限の終値は前日比1.90ドル安の46.06ドルだった。

週明け28日は、市場の注目が30日のOPEC総会に集まる中、サウジのファリハ大臣のOPEC減産がなくても2017年には石油需給は均衡する、減産措置はより早期の均衡を目指すものとの発言があり、値ごろ感からの買い戻しや持ち高調整の買いも入り反発した。1月限の終値は前日比1.02ドル高の47.08ドルだった。

29日は、OPEC総会を前に、イランのザンガネ石油相が減産を拒否し、サウジの減産幅拡大を要求するなど、引き続き、イランとイラクが減産に消極的で、減産実施に向けた合意に懐疑的な見方が広がり、大幅反落した。1月限の終値は1.85ドル安の45.23ドルとなった。

30日は、OPECが生産目標3,250万バレルへの減産実施を正式に決定したことで、早期の需給均衡への期待が高まり、大幅に反発した。EIAによる米国石油在庫週報での原油在庫減少の報告も、反発を後押しした。1月限は前日比4.21ドル高の49.44ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（1月渡し）は、前週43.30～46.70ドルの範囲で推移した。24日は46.30ドル、25日は45.80ドル、28日は44.90ドル、29日は45.40ドル、30日は44.30ドルで推移した。

為替は、前週108.74～110.95円の範囲で大きく円安で推移した。24日は112.43円、25日は113.78円、28日は112.24円、29日は111.90円、30日は112.42円で推移した。

財務省が29日発表した貿易統計速報（旬間ベース）によると、11月上旬の原油輸入平均CIF価格は、前旬比1,385円上げの31,061円/kl。ドル建てでは47.39ドルで前旬比1.91ドル高。為替レートは1ドル/104.21円。

主要元売会社の12月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、1.5円の値下がりから3.0円の値上がりとなった。原油価格は値上がりし、為替レートは大幅円安で、原油調達コストは値上がりだった。

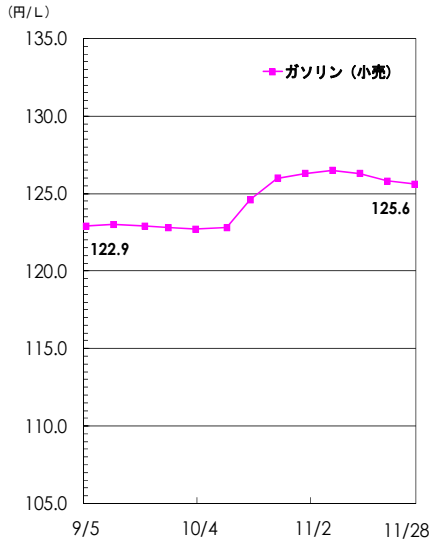
そのような中で、11月28日時点の小売価格は、ガソリンが0.2円値下がりの125.6円、軽油が0.1円値下がりの104.8円、灯油は0.6円値上がりの66.6円だった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油は2週連続の値下がり、灯油は7週連続の値上がりだった。この週（11月第5週）の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は据え置きから0.5～2.0円の値上げだった。

原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	11/20 ～ 11/26	3,726	▲ 152	▲ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	88.4	▲ 3.7	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	11/26	14,811	▼ -374	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	11/28	45.18	▲ 0.01	▲ 2.8
	WTI原油 (NYMEX)	（$/bbl）	11/28	47.08	▼ -0.41	▲ 5.4
	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	11月上旬	47.39	▲ 1.91	▼ -0.11
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	31,061	▲ 1,385	▼ -5,152
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	104.21	▼ -0.48	▲ 17.00
	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	11/28	113.24	▼ -1.29	▲ 10.58

（単位：千kl、円/㌔）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		11/20 ～ 11/26	1,097	▲ 104	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	1,030	▲ 56	▲ –
	輸出		〃	22	▼ -18	▼ –
	在庫		11/26	1,635	▲ 45	▼ –
価格	業転［陸上ローリー 4地区平均］	(RIM)	11/22 ～ 11/28	42.9	▲ 1.5	▼ -2.2
	先物［期近物/終値］	(TOCOM/東京湾)	11/22 ～ 11/28	44.2	▲ 2.3	▼ -1.9
		(TOCOM/中部)	11/28	43.5	▲ 0.3	▼ -2.9
	小売［週動向］	(資エ庁公表)	11/28	125.6	▼ -0.2	▼ -3.5

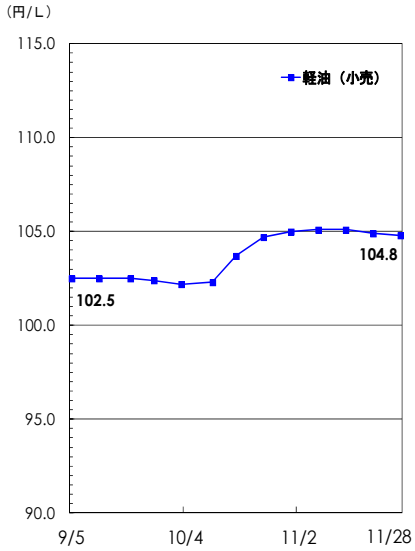
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

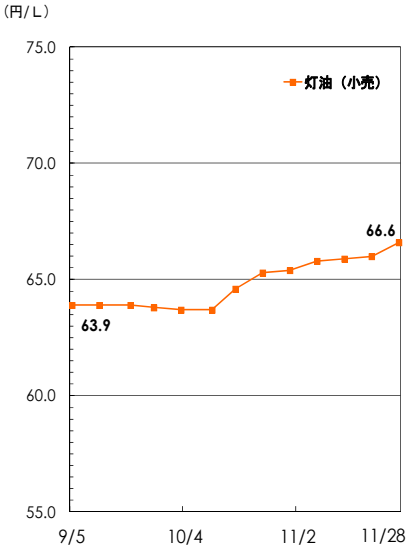
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		11/20 ～ 11/26	804	▼ -63	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	624	▼ -30	▲ –
	輸出		〃	69	▼ -138	▼ –
	在庫		11/26	1,546	▲ 111	▲ –
価格	業転［陸上ローリー 4地区平均］	(RIM)	11/22 ～ 11/28	43.9	▲ 1.3	▼ -5.9
	先物［期近物/終値］	(TOCOM/東京湾)	11/22 ～ 11/28	43.0	➡ 0.0	▲ 0.4
		(TOCOM/中部)	11/28	–	–	–
	小売［週動向］	(資エ庁公表)	11/28	104.8	▼ -0.1	▼ -4.8

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		11/20 ～ 11/26	405	▲ 106	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	439	▲ 59	▲ –
	輸出		〃	0	➡ 0	➡ –
	在庫		11/26	2,359	▼ -34	▼ –
価格	業転［陸上ローリー 4地区平均］	(RIM)	11/22 ～ 11/28	48.4	▲ 2.7	▲ 3.1
	先物［期近物/終値］	(TOCOM/東京湾)	11/22 ～ 11/28	47.8	▲ 2.0	▲ 2.9
		(TOCOM/中部)	11/28	46.5	▼ -0.1	▲ 2.3
	小売［週動向］	(資エ庁公表)	11/28	66.6	▲ 0.6	▼ -8.0



■ 関連情報

1　海外/原油

30日のNYMEX市場WTI原油は、合意が難しいと見られた同日のOPEC総会で、2017年1月からの新生産目標日量3,250万BDへの減産（10月生産実績同3,364万バレル）を決定し、ロシア等の非OPEC産油国も減産に協調する方針であることから、国際石油市場の早期均衡の実現への期待が大きくなり、大幅に反発した。米国エネルギー情報局（EIA）の週間在庫統計で、ガソリン在庫は前週比60万バレル増加、中間留分は同500万バレル増加したものの、原油在庫が同90万バレル減と事前の市場予想（同60万バレル増）に反して減少したことも反発を後押しした。1月限の終値は前日比4.21ドル安の49.44ドルと10月27日の49.72ドル以来約1ヵ月振りの高値を付けた。2月限の終値は前日比4.21ドル高の50.34ドルだった。

EIAによると11月28日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比0.1セント値下がりの1ガロン2.154ドル（64.4円/㍑）となった。ディーゼルは前週比0.1セント値下がりの2.420ドル（72.3円/㍑）。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは4週連続の値下がり。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、11月20日～26日に休止したトッパー能力は、7.0万バレル/日と前週に比べて14.3万バレル減少。（全処理能力は379.0万バレル/日）。

原油処理量は372.6万klと、前週に比べ15.2万kl増加。前年に対しては17.2万klの増加。トッパー稼働率は88.4%と前週に対して3.7ポイントの増加、前年に対しては6.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/10.5%増、ジェット/1.9%減、灯油/35.3%増、軽油/7.3%減、A重油/23.7%増、C重油/28.3%増。今週のC重油の輸入は0.2万kl（前週比10.5万kl減）。軽油の輸出は6.9万kl（前週比13.8万kl減）。

出荷（販売量）は、前週比ではジェット、軽油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェットのみが減少し、その他の油種で増加した。原油価格は値上がりに転じたが、小売価格は3週連続で値下がりとなる中、ガソリンの出荷は103.0万 kl（対前週5.8%増）と2週連続で前週比で増加、9週連続で前年比で増加となり、12週振りに100万klを超えた。

ジェット4.4万 kl（対前週70.4%減）、灯油43.9万 kl（対前週15.7%増）、軽油62.4 万kl（対前週4.5%減）、A重油26.1万 kl（対前週19.8%増）、C重油32.5万 kl（対前週2.8%増）。

（単位：千KL）

	今週 (11/20 ~ 11/26)	前週 (11/13 ~ 11/19)	前週比	
ガソリン	1,030	974	▲ 56	(6%)
ジェット燃料	44	149	▼ -105	(-70%)
灯油	439	380	▲ 59	(16%)
軽油	624	654	▼ -30	(-5%)
A重油	261	218	▲ 43	(20%)
C重油	325	316	▲ 9	(3%)
合　計	2,723	2,691	▲ 32	(1%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

11月26日時点の在庫はガソリン、軽油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては軽油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは163.5万kl、前週差4.5万kl増。前年に対しては7.6万kl少い。

灯油は235.9万kl、前週差3.4万kl減。前年に対しては70.3万kl少ない。

軽油は154.6万kl、前週差11.1万kl増。前年に対しては15.9万kl多い。

A重油は71.7万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては8.9万kl少ない。

C重油は186.2万kl、前週差2.0万kl減。前年に対しては29.2万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (11/26)	前週 (11/19)	前週比	
ガソリン	1,635	1,590	▲ 45	(3%)
ジェット燃料	962	993	▼ -31	(-3%)
灯油	2,359	2,393	▼ -34	(-1%)
軽油	1,546	1,435	▲ 111	(8%)
A重油	717	709	▲ 8	(1%)
C重油	1,862	1,882	▼ -20	(-1%)
合　計	9,081	9,002	▲ 79	(0.9%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

11月22日から11月28日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円安で、原油コストは値上がりと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン96円台、軽油43～44円台、灯油47～48円台で灯油の値上がりが続いた。海上スポット価格は、ガソリン97円台、軽油45～46円台、灯油47～48円台で全般的に堅調だった。先物価格はガソリン97～98円台、軽油43円台、灯油47～48円台だった。元売の卸価格は0.5円の値下がりから3.0円の値上がりだった。

EMGマーケティングは12月1日、12月3日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種を2.5円値上げする旨を通知した。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

原油コストが値上がりし、卸価格も引き上げられたことから、製品スポット市況は堅調となった。週間のガソリン販売量は、12週振りに100万klを上回った。

12月第1週（12月1日～12月7日）適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格（11月22日～11月28日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値）は、ガソリンは1.5円、灯油は2.7円、軽油は1.3円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.1円、灯油は1.8円の値上がり、軽油は横ばいだった。先物価格は、ガソリンが2.3円、灯油が2.0円の値上がり、軽油が横ばいだった。原油価格は値上がり、為替は円安で、原油コストは値上がりとなり、製品スポット価格も全般的に堅調となった。

12月第1週の大手元売の卸価格は、0.5円の値下がりから3.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

（RIM）　（単位：円/㌔）

	[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (11/22 ~ 11/28)	前週 (11/15 ~ 11/21)	前週比
スポット価格	レギュラー	42.9	41.4	▲ 1.5
	灯油	48.4	45.7	▲ 2.7
	軽油	43.9	42.6	▲ 1.3

（TOCOM）　（単位：円/㌔）

	[期近物/終値〔平均〕]	今週 (11/22 ~ 11/28)	前週 (11/15 ~ 11/21)	前週比
先物価格	レギュラー	44.2	41.9	▲ 2.3
	灯油	47.8	45.8	▲ 2.0
	軽油	43.0	43.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値　（11/22～11/28実績値）　（単位：円/㌔）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.5	▲ 2.3	▲ 1.9
灯油	▲ 2.7	▲ 2.0	▲ 2.3
軽油	▲ 1.3	➡ 0.0	▲ 0.7
A重油	▲ 1.1		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

11月28日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円値下がりの125.6円、軽油が前週比0.1円値下がりの104.8円、灯油は前週比0.6円値上がりの66.6円だった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油は2週連続の値下がり、灯油は7週連続の値上がりとなった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは10県、横ばいは10府県、値下がりは27都道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の120.8円（前週比0.1円安）、次が千葉県の121.8円（前週比0.3円安）だった。最高値は長崎県の134.3円（同1.0円高）だった。都道府県別で最も値上がりしたのは、前週比0.7円高の青森県（125.3円）で、最も値下がりしたのは1.5円安の東京都（127.0円）だった。原油コストは値上がりしたが、3週連続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の元売会社の卸価格は0.5円の値下がりから2.0円の値上げだった。原油価格は値上がりし、為替レートは円安で、原油コストは値上がりとなったが、多くの元売会社が卸価格を引き上げる中、一部元売がガソリンの卸価格を引き下げたため、次週のガソリンの小売価格は横ばい、転嫁の遅れている灯油は値上がりが予想される。

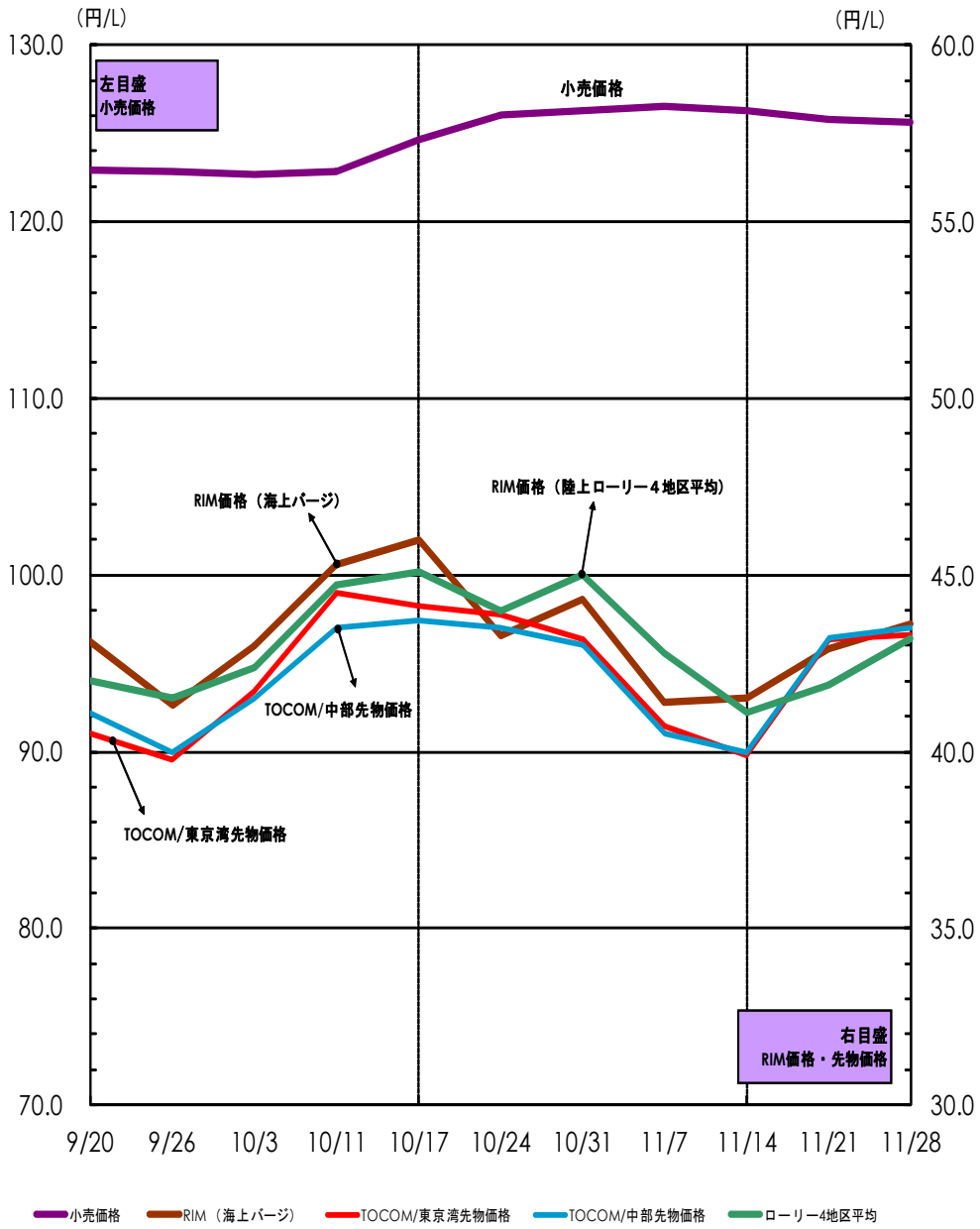
（単位：円/㌔）

（資エ庁公表）[週動向]		今週 (11/28)	前週 (11/21)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	125.6	125.8	▼ -0.2	08/8/4	185.1
	灯油	66.6	66.0	▲ 0.6	08/8/11	132.1
	軽油	104.8	104.9	▼ -0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/9/20 ～ 2016/11/28)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（http://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2016第35号）の公表は、12/9（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（平成28年3月末現在）は、8月3日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。